【まちの将来像4】

市民・地域とともに備え、 命と暮らしを守る安全安心のまち

1 施策の概要

肥泉の似安								
まちの将来像	4	市民·地	域とともに備え、命と暮らしを	守る安全安心のまち				
施策	4–1	災害~	害への備えを充実させる					
施策の 方向性 (前期基本 計画より)	防災体制の確立と防災意識の高揚を図り、行政や市民等が災害や有事に際しての役割を認識し備えるとともに、耐震化の促進や雨水対策など災害に強い安全で安心して暮らせるまちづくりを進めます。							
			部名	補職名•課名	氏 名			
評価者等	評価者(部長級)		総務部	部 長	西川 恵三			
	施策	主担当課	総務部	危機管理課	_			
	施策	関係課	総務課、地域福祉課、農とみどり推進課、居住政策課、北部整備推進課、建設管理課、道 路交通課、建築課、下水道総務課、下水道施設課、水道部総務課					
	4-1-	1 ★防災	(体制の強化					
	4-1-	2 ★防災	会意識の高揚					
施策内の	4-1-	3 ★建築	E物の耐震化の促進					
(★:重点プ	4-1-	4 上下水	く道施設の耐震化					
ラン該当取組)	4-1-	5 ★総合	かな雨水対策の推進					
	4-1-	6 安威川	ダムによる治水対策					
	まちの施施方前割画 価価 策取重該 マップ では まり できます かん	まちの将来像 4 施 策 4-1 施 策のの性本からがいる。 所がいる。 所がいる。 がいる。 がいる。 がいる。 がいる。 がいる。 がいる。 がいる。	 まちの将来像 4 市民・地 施策の方向性(前期基本計画より) 評価者等 評価者等 評価者(部長級) 施策主担当課 施策関係課 4-1-1 ★防災4-1-2 ★防災4-1-3 ★建第4-1-4 上下が到し、 ★・・重点プラン該当取組) 4-1-5 ★総合 	 市民・地域とともに備え、命と暮らしを施策の方向性(前期基本計画より) 評価者等 施策主担当課 施策主担当課 施務部 施策主担当課 施務部 施策主担当課 施務課、地域福祉課、農とみど路交通課、建築課、下水道総が路交通課、建築課、下水道総が路で、 本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 あ 策 4-1 災害への備えを充実させる 施策の方向性(前期基本計画より) 評価者等 部 名 補職名・課名 評価者等 部 名 補職名・課名 評価者(部長級) 総務部 高 長 施策財係課 総務部 危機管理課 施策関係課 総務課、地域福祉課、農とみどり推進課、居住政策課、北部整路交通課、建築課、下水道総務課、下水道施設課、水道部総額 4-1-1 ★防災体制の強化 4-1-2 ★防災意識の高揚 4-1-3 ★建築物の耐震化の促進 4-1-4 上下水道施設の耐震化 4-1-5 ★総合的な雨水対策の推進 			

H29年度末現在の施策の現状と課題

総合評価

- 施策の方向性に沿って順調に進行している。
- 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。

B C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。 評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等) H29年度末現在の施策の主な課題 災害対策活動に必要となる庁舎の電源設備等を整備又は備蓄を行いました。-災害時避難行動要支援者名簿の平時にお 課題 機能強化事業は、二公園(三島・上穂積公園)の整備を完了しました。民生委員・児童委員に配 ける地域での活用方法を検討する必要があ 付している災害時避難行動要支援者名簿について、更新し、再配付しました。また、市内全域防 災訓練にあわせ、民生委員・児童委員と連携した職員訓練を行いました。また、自主防災組織の 1 ります。 災訓練にあわせ、民生委員・児童委員と連携した職員訓練を行いました。また、自主防災組織の防災土養成については、補助制度を活用し、11人が防災土の認証を取得しました。松沢池、錨かれ、鳥羽新池のため池ハザードマップをため池管理者等と連携し作成しました。西駅前町において地籍調査事業(一筆地調査)を実施しました。また、法務局の地図作成に伴い官地に対しての境界立会いを行い、法務局と市が協力して地図作成を進めました。山間部8集落に整備した雨量観測局から雨量データを収集し、市のホームペーンに掲載するとともに、気象庁及び府が発表する土砂災害警戒情報の基礎データとして、情報提供しました。自主防災組織への支援として、防災土43人、女性防災リーダー77人を育成するとともに、自主防災組織連絡会に設置した防災土部会、女性部会の活動を継続的に支援することで、各々が地域防災活動で活躍できました。また、市内全域防災訓練では、全自主防災組織が参加し、各組域防災活動で活躍できました。また、市内全域防災訓練では、全自主防災組織が参加し、各組域防災活動で活躍できました。また、市内全域防災訓練では、全自主防災組織が参加し、各組域防災活動で活躍できました。また、市内全域防災訓練では、全日主防災組織が多加し、各組域防災活動で活躍できました。また、中央地で防災制度を機関しついませた。 地域防災活動への若年層の参加割合が低 課題 く、参加者の高齢化、固定化がみられます。 織が企画した防災訓練を実施しました。合わせて防災関係機関との連携も図ることができました 住宅の耐震診断のみで耐震改修工事まで さらに、防災啓発、防災訓練、人材育成を並行して実施することで、自助・互助・共助意識が高揚 課題 |行なわない事例が多いため、耐震化率が伸 、地域防災力の向上が図れました 耐震化率の向上を図るため、S56年5月31日以前建築の住宅所有者に対し、個別に周知・啓発 びず、共同住宅の耐震改修補助についても を行い、耐震診断・耐震改修工事の補助を行いました。 市有建築物の耐震化率は、茨木市住宅・建築物耐震改修促進計画の目標値95%を達成していますが、更なる耐震化の向上に努めま 活用されていません。 上水道については、平成29年度にアセットマ 。 上水道については、山手台低区配水池1基の耐震化及び基幹管路の老朽管の更新に合わせ て耐震化を実施したことから、配水池の耐震化は完了し、基幹管路の耐震化も順調に進みまし ネジメント手法を用いた「施設更新計画」を 課題 策定しましたが、今後増大する更新需要に 下水道については、処理場と大池ポンプ場を繋ぐ幹線管渠及び大池ポンプ場の耐震工事を実 施、また下水道BCP、第2期「下水道総合地震対策計画」を策定しました。 対応するための財源を確保する必要があり ハード対策として、雨水管渠等の整備を進めるとともに、雨水基本構想に基づき、段階的(10年間)な雨水整備計画について検討を行っています。また、ソフト対策として淀川、安威川など6つの一級河川及び市管理の高瀬川など市内主要13水路の観測点15箇所の水位情報をホーム ます。 ジで公表するとともに、市内30団体ある自主防災会と連携し、市全域防災訓練を実施し地域 雨水基本構想を実現するには、ため池等の 課題 防災力向上を図りました。 活用、河川や下水処理場との調整や法的な 大阪府が建設中の安威川ダムは、平成33年度の完成を目標に掘削工事等が鋭意進められて (5) おり、本市が推進する土地改良事業等の生活再建対策等も計画的に取り組んでいます。 手続きが必要です。

1	まちの将来像	4 nt.	5民・地域	 域とともに備え、命	と暮らしを	守る安全	 安心σ)まち		
2	施策			備えを充実させる						
3	 施策内の]	取組の	評価						* :	重点プラン該当取組
1	取組	4-1-1		災体制の強化						
2	主担当課	部名		総務部	課名	危	機管理	課	課長名	多田 明世
3	関係課	総務課、	地域福祉	止課、農とみどり推進	課、建設管	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
4	目 標 (前期基本 計画より)			が充実し、総合的な[0 たが日頃から災害に来				すべての小	学校区で	自主防災組織が結
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	③安全•	安全・安心に暮らせるまちをつくる 内							
		取組の	評価	評価理由	(H29年度0	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)
6	シロエマン・ハハル	a:順調に進行	ta順調に進行にやい音をは対してい場所を受けていた。出間的ではやり遅れない。 電気に整備した雨量観測のから雨量データを収集し、市のホームページに掲載するとともに、気象庁及び							
	の現状			参考指標		単位	めざす	実績	漬値	目標値(年度)
				シ'行 1日 1床		+12	方向性	H28年度	H29年度	口保险(干及)
		自主防災	組織率			%	7	89	89	100(H31)
1	取組	4-1-2	→ Rts	 災意識の高揚						
2	主担当課	部名	נען 🗡	総務部	課名	合	機管理	.課	課長名	多田 明世
3	関係課	HIP. III		100000 PP	DV. D					
	74171721									
4	目 標 (前期基本 計画より)		支援者	物資の備蓄、家具の への支援や初期消火 います。						
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	③安全•	安心に暮	 导らせるまちをつくる					防災訓練等 の啓発活動	
		取組の)評価	評価理由	(H29年度0	の取組内容	ドと成果	:、影響を与	えた外的な	な要因等)
6	-20 12 -02 -174-12	a: 順調に進行 b: おおむね順 c: 進行にやや d: 進行に大帆	〒 頁調に進行 ○遅れ	防災組織連絡会に設 地域防災活動で活躍 組織が企画した防災	置した防災 できました。 訓練を実施 、防災訓練、	士部会、女 また、市内 しました。 合 人材育成	性部会 全域防 わせて	の活動を総 災訓練では 防災関係機	&続的に支払 は、全自主防 機関との連携	5災組織が参加し、各
	の現状			参考指標		単位	めざす 方向性	実 H28年度	責値 H29年度	目標値(年度)
		自主防災	組織主作	産訓練等への参加人数	<u>——</u> 效	人	7	53,944	9,175	10,000(H30)

1	まちの将来像	4	市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち
2	施策	4-1	災害への備えを充実させる

1	取組	4-1-3	★建	薬物の耐震化の値	 足進				^.	里点ノフノ該ヨ取組	
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	居	住政策	課	課長名	長谷川 善久	
3	関係課	建築課	I.								
4	目 標 (前期基本 計画より)		多くの住宅及び多数の者が使用または利用する一定規模以上の建築物である特定建築物や公共施設が震性を満たしています。								
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	③安全•安	マ全・安心に暮らせるまちをつくる 内 耐震診断、耐震改修の補助制度の推進、 容 相談会やセミナーによる啓発活動の充実								
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)	
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順 c:進行にやや d:進行に大幅	調に進行	耐震化率の向上を図 発を行い、耐震診断・ 市有建築物の耐震イ いますが、更なる耐震	耐震改修エ と率は、茨フ	「事の補助を 大市住宅・発	を行いま 建築物而	にた。			
	の現状			参考指標		単位	めざす	実糸	責値	目標値(年度)	
				少 与相保		中位	方向性	H28年度	H29年度	日保旭(平度)	
			住宅の耐震化率(住宅・土地統計調査に基へ 阪府住宅耐震化率推計、次回は平成30年度				7	_	-	95 (H32)	
		市有建築特	かの耐!	長化率(大池ポンプ場合	きむ)	%	7	95.6	97.4	97.4(H32 95%以上)	

				 	_						
1	取組	4–1–4	上下	水道施設の耐震化	<mark></mark>						
2	主担当課	部名		水道部	課名		総務課		課長名	松本 衛	
3	関係課	下水道施	設課								
4	目 標 (前期基本 計画より)	災害発生	後害発生時も水道水を供給できる上下水道施設が整備されています。								
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	当なし 内								
		取組の	評価	評価理由((H29年度0	の取組内容	ドと成果	、影響を与	えた外的な	は要因等)	
6		a: 順調に進行 b: おおむね順記 c:進行にやや d: 進行に大幅	調に進行遅れ	上水道については、 て耐震化を実施したこ た。 下水道については、 実施、また下水道BCF	とから、配え 処理場と大	k池の耐震 池ポンプ場	化は完 場を繋ぐ	了し、基幹 ^令 幹線管渠及	管路の耐震 び大池ポン	/プ場の耐震工事を	
	の現状			全		** / -	めざす	実終	責値	口捶່ (左连)	
				参考指標		単位	方向性	H28年度 H29年度		目標値(年度)	
		配水池の耐震化率(上水道)				%	\rightarrow	91.4	100	100.0(H34)	
		基幹管路の	の耐震管	营率(上水道)		%	7	38.0	38.6	44.0(H34)	
		重要な幹線 震化率(下		2置づけた下水道管路1	施設の耐	%	7	95	95.3	95.8 (H31)	

1	まちの将来像	4	市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち
2	施策	4-1	災害への備えを充実させる

1	取 組	4-1-5	★総	合的な雨水対策の	の推進				A	里点ノフノ該ヨ収組	
2	主担当課	部名		建設部	課名	下九	k道総新	务課	課長名	田邊 武志	
3	関係課	危機管理	課、下ス	k道施設課							
4	目 標 (前期基本 計画より)		今後予期できない浸水被害や土砂災害に対して、行政によるハード整備と市民・事業者によるソフト対策を わせた総合的な施策により、浸水被害や土砂災害の軽減が図られています。								
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	③安全•安	安全・安心に暮らせるまちをつくる 内容 ハード・ソフト対策を合わせた総合的な対策の推進								
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	を成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)	
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順i c:進行にややi	ハード対策として、雨水管渠等の整備を進めるとともに、雨水基本構想に基本年間)な雨水整備計画について検討を行っています。また、ソフト対策として流っの一級河川及び市管理の高瀬川など市内主要13水路の観測点15箇所の水でがで公表するとともに、市内30団体ある自主防災会と連携し、市全域防災域防災力向上を図りました。 進行に本や遅れ						て淀川、安威川など6 の水位情報をホーム		
	の現状			参考指標		単位	めざす	実統	責値	目標値(年度)	
				多行141宗		丰山	方向性	H28年度	H29年度	日保胆(干皮)	
		下水道による都市浸水対策達成率				%	\rightarrow	38.4	38.8	39.1(H31)	
		自主防災組織主催訓練等への参加人数				人	7	53,944	9,175	10,000(H31)	

1	取 組	4-1-6	安威	川ダムによる治水	対策						
2	主担当課	部名		都市整備部	課名	北部	整備推	進課	課長名	岡田 直司	
3	関係課	農とみどり	推進課	、道路交通課							
4	目 標 (前期基本 計画より)		大雨による安威川の氾濫により、想定される流域の大規模な浸水の被害を防ぎ、 主民の生命と財産が守られています。								
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	当なし 内容								
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	ドと成果	:、影響を与	えた外的な	な要因等)	
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順 c:進行にやや d:進行に大幅	調に進行	大阪府が建設中の3 おり、本市が推進する						「等が鋭意進められて 組んでいます。	
	の現状			参考指標		単位	めざす		責値	目標値(年度)	
				少 有相保		半四	方向性	H28年度 H29年度		口保胆(牛皮)	
		安威川ダム	建設事	工業進捗状況 【掘削】		m³	7	166万	204万	平成30年度	
		安威川ダム	建設事	耳業進捗状況 【盛立】		m³	7	10万	26万	平成33年度	

1	まちの将来像	4	市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち
2	施策	4-1	災害への備えを充実させる

4 学識経験者の意見

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	・「施策の現状と課題」において、前期基本計画の後半に入る中でハード対策・ソフト対策の両面で一定の取組の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・取組4-1-2ならびに4-1-5の参考指標「自主防災組織主催訓練等への参加人数」において、今年度はH31目標をほぼ達成していると言えるが、前年度の実績値より大きく低下している。本点については、単純に低下したのか、もしくは訓練の目標や内容による意図的な訓練対象者の変更等に伴う発展的な変化なのか、取組の数値変化だけでなく質的変化についての説明もあれば良いと考える。 ・取組4-1-3について、耐震改修・除却補助制度の利用実績など、引越等に伴う非耐震建築物の減少と市の施策の実績を明確にすることも検討されたい。 ・行政による取り組みに加えて、市内で活動する防災に関わる市民団体等による活動の参加者(特に地域防災活動への不参加者である小さな子どもを持つ母親等の若年層)等も考慮に入れ、市内全体の災害への備えについての行政施策の波及効果や市内全体での備えの充実度合いを把握することによって、今後の対策を考えていくことが重要であると考える。

1 施策の概要

	施束の做要								
1	まちの将来像	4	市民・地	域とともに備え、	命と暮らしを	守る安全安心のまち			
2	施策	4-2	消防・	消防・救急体制の充実強化を図る					
3	施策の 方向性 (前期基本 計画より)		多様な災害に即応する消防体制と高齢化社会に対応した救急体制の充実強化を図るとともに、防火意識の向上に努め火災予防を推進します。						
				部	名	補職名∙課名	氏 名		
4	評価者等	評価者(部長級)		消防本部	•消防署	部 長	泉 頼明		
4		施策	主担当課	消防本部	•消防署	消防本部総務課	_		
		施策	段関係課	警備課、予防課、警防課、救急救助課					
		4-2-	-1 ★消防	- ち体制の充実強化	í				
		4-2-	-2 ★救急	急業務の充実強化	í				
	施策内の 取組	4-2-	-3 火災予	ち防の推進					
5	(★:重点プ								
	ラン該当取 組)								

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

_									
1	総合評価 目 こ	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。							
	評価理由(H29年度の主な成果、総合	合評価に影響を与えた外的な要因等)		H29年度末現在の施策の主な課題					
	の事業所などで、実践的な訓練を が参加すると共に、事前の教養及 力の向上が図れました。 阪急茨木市駅において、NBC	び事後の検証を実施し、災害対応災害を想定した訓練を実施し、特	課題	大規模な火災やNBC災害などの特殊災害 への対応力強化が必要である。					
	し、他の機関と連携を行い、多数像 れました。 消防団と常備消防との合同訓練	(傷病者発生時の対応訓練を実施 傷病者発生時の対応力の向上が図 や各分団間の連携訓練を行い、訓	課題	大規模な火災や自然災害時には、複数の分団が連携して活動するため、各分団間の連携強化が必要である。					
2	波探査装置などの機器を計画どお 高齢化の進展に伴う救急需要の	り整備しました。 車、支援車などの消防車両や電磁		増加傾向にある救急件数に対し、限られた 救急隊数で、迅速で適切な救急活動を効果 的に行う必要がある。					
	ともに応急手当の普及啓発や救急 周知を行いました。 火災による被害を軽減するために 実施するとともに、児童、幼児への 災思想の醸成を図りました。	ま安心センターおおさか(#7119)の こ、広報媒体を活用した啓発活動を 防火・防災教育を実施し、防火・防	課題 ④						
	また、違反対象物に係る公表制度防法令違反のある防火対象物につ表しました。	度を7月1日から施行し、重大な消 ついて、その法令違反の内容を公	課題 ⑤						

4	まちの将来像	4 =	4 市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち								
2	施策			^{銭とともに備え、叩} ―――― 急体制の充実強化			小の女王	女心0.	/より		
		1*1		3. 体间0.7元天强1C	- C E	7.0 7.0					
3	施策内の	<u>収和の</u> 4-2-1		 防体制の充実強	<i>1</i> 1					<u>★:</u>	重点プラン該当取組
2	主担当課	部名		防本部・消防署	-	課名		総務課		課長名	上计 隆明
_	関係課	警備課、		例本部*	i	沐 位		秘伤床	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	林文石	工儿 性切
3	送流床	普佣硃、	音的珠								
4	目 標 (前期基本 計画より)	多様な	災害に迅	3速に対応できる消隙	方体的	制が整	っています				
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	③安全•	マ全・安心に暮らせるまちをつくる 内容 車両等の計画的な更新整備								
		取組の	O評価	評価理由	(H2	9年度	の取組内容	ドと成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)
6	H29年度末 現在の取組	a: 順調に進作 b: おおむね!! c: 進行にやれ d: 進行に大	行順調に進行や遅れ	害に対する活動力の 消防団については、 図った。	向上、装6	を行って	た。 充実と複数タ	分団によ	る合同連携 送車(支援	통訓練を実施車)を更新	けい、多岐にわたる災 をし連携の強化を 整備し消防体制の強
	の現状			参考指標			単位	めざす 方向性		遺値	目標値(年度)
									H28年度	H29年度	
			かを行った	た消防団員の人数(3	正べ	人数)	人	\rightarrow	1,090	1,660	_
			イフトス屋	4. 出 五 種 / 宝 煙 荷 パ						,	
		建物火災 値)	くによる雰	E損面積(実績値は、			m²	~	401	60	-
			とによる 房	E損面積(実績値は、			m²	`	<u> </u>	60	-
1	取組	値)			各年		m²	\	<u> </u>	60	-
•	取組主担当課		★救済	急業務の充実強	各年				401		
1 2 3	主担当課	値) 4-2-2 部名	★救済		各年	手中の		急救助	401	課長名	- 中村 仁
2		值) 4-2-2 部名 警備課	★救	急業務の充実強	化	ままり 課名			401		
3	主担当課 関係課 目 標 (前期基本	値) 4-2-2 部名 警備課 円滑な	★救 消	急業務の充実強 防本部・消防署	各年 化 ます 内	課名 。 市民の		急救助	課		
2 3	主担当課 関係課 目標(前面より) 該当プラン (前期基本	値) 4-2-2 部名 警備課 円滑な	★教 消 は救急活・安心に	急業務の充実強 防本部・消防署 動体制が整っていま	各 化 … 内容	課名 。 市 表 流)自主救護動の迅速	急救助能力の高化・高	課 向上、		中村 仁
2 3	主担当課 関係課 目期場より 該点期より を重前期 ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの	値) 4-2-2 部名 警備課 円滑な	★救消 ** 教	急業務の充実強 防本部・消防署 動体制が整っている 事体制が整っている 事体理由 数急隊員による質のいく。また、今後も教治力を得て広報を実施	各 化 す 内容 (H2 向需で中	課名 。 市教急に とと を は な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な	カ 自主救護 活動の迅速 の取組内容 様機関との追加傾向にあ のひとつで	急救助の高を持ため、	課 一向度 上、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	課長名 課長名 な救急活動 窗正利用に ターおおされ 31件の増力	中村 仁 中村 仁 な 要因等) を引き続き実施して ついて医師会等に協
3 4 5	主担当課 関係課 目期を 目期を 当プラント (前面 当プラント (計画を は対し (計画を は対し (計画を は対し (計画を は対し (計画を は対し (計画を (計画を (計画を (計画を (対しましょう)) (対しましょう) (対しまと) (対しましょう) (対しまと) (も) (も) (も) (も) (も) (も) (も) (も) (も) (も	値) 4-2-2 部名 警備課 円滑なる なる 取組の a:順調に進れ版とに進われたとも	★救済 消 対急活・安心に ・安価	急業務の充実強防本部・消防署 動体制が整っています。 事のはあまちをつます。 評価理由 救急隊員による質のいく。また、今後も救った場で広報を実施数については平成28	各 化 す 内容 (H2 向需で中	課名 。 市教急に とと を は な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な	カ 自主救護 活動の迅速 の取組内容 様機関との追加傾向にあ のひとつで	急救助の高を持ため、	課 一向度 上、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	課長名 課長名 な救急活動 商正利用に対しています。	中村 仁 中村 仁 で
3 4 5	主担当課 関係課 目期場より 該点期より を重前期 ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの	値) 4-2-2 部名 警備課 円滑なる 取組の a: 順調はなにとれている。 選進行に大幅	★救消 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	急業務の充実強防本部・消防署 防本部・消防署 動体制が整っていき 事価理由 救急隊員による質のいく。また、今後も教が、力を得て広報を実施数については平成28 き利用促進を図ってい	各 化 す 内容 (H2 向需で中	課名 。 市教急に とと を は な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な	教の 対します。 対します。 対します。 対します。 対します。 対します。 対します。 がはいる。 がはいる。 がはいる。 がはいる。 がはいる。 がはいる。 がいる。 がいる。 がいる。 はい。 はいる。 はい。 はい。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	急救助の高果の高果の変をします。	### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	課長名 課長名 な救急活動 適正利用に ターおおされ 31件の増力	中村 仁 中村 仁 で引き続き実施して ついて医師会等に協い(#7119)の利用件 ロとなり、今後も引き続
3 4 5	主担当課 関係課 目期場より 該点期より を重前期 ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの	値) 4-2-2 部名 警備課 円滑なる 取組の a: 順調はなにとれて は、進者でした人 は、進行に大人	★救消 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	急業務の充実強 防本部・消防署 動体制が整ってい 暮らせるまちをつ 評価理由 救急隊員による質の いく。また、今後も救治 力を得ていては平成28 き利用促進を図ってい 参考指標	各 化 す 内容 (H2 向需で中	課名 。 市教急に とと を は な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な	教の事態を表現でででで、 を関している。 を関している。 を関している。 を関している。 を関している。 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、	急救助力・ 成果 継い、急があり の高 果 継い、急が かっこう は かん	### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	課長名 課長名 な数急活動に 対の増力 計算の はない。 は は は は は は は は は は は は は	中村 仁 中村 仁 かけ (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語)
3 4 5	主担当課 関係課 目期場より 該点期より を重前期 ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの ・ はの	値) 4-2-2 部名 警備課 円滑なる 取組の a: 順調はなにとれて は、進者でした人 は、進行に大人	★救消 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	急業務の充実強 防本部・消防署 動体制が整ってい 暮らせるまちをつ 評価理由 救急隊員による質の いく。また、今後も救治 力を得ていては平成28 き利用促進を図ってい 参考指標	各 化 す 内容 (H2 向需で中	課名 。 市教急に とと を は な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な ち な	教の事態を表現でででで、 を関している。 を関している。 を関している。 を関している。 を関している。 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、	急救助力・ 成果 継い、急があり の高 果 継い、急が かっこう は かん	### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	課長名 課長名 な数急活動に 対の増力 計算の はない。 は は は は は は は は は は は は は	中村 仁 中村 仁 かけ (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語)

1	まちの将来像	4	市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち
2	施策	4-2	消防・救急体制の充実強化を図る

1	取 組	4-2-3	火災-	予防の推進					,,,,	<u> 主ボノノン 欧 当 収 旭</u>	
2	主担当課	部名	消	防本部・消防署	課名		予防課		課長名	石川 薫	
3	関係課	警防課	· 功課								
4	目 標 (前期基本 計画より)	防火意	5火意識が高まり、火災件数が減少しています。								
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	内容								
		取組の	評価	評価理由	(H29年度)	の取組内容	『と成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)	
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順 c:進行にやや d:進行に大幅	調に進行遅れ	各イベントや消防訓 教育、幼児防災教育(解を深めることができ 市民の安全安心を守	については る内容とした	、学校、幼和 <u>-</u> 。	性園職員	員の意見を	参考にして!	見直しを行い、より理	
	の現状			参考指標		単位	めざす	実終	責値	目標値(年度)	
				多为161末		- 平位	方向性	H28年度 H29年度		口标心(千支)	
		人口1万人	の出火件数(出火率)		件	\rightarrow	1	1. 3	_		

4 学識経験者の意見

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	・「施策の現状と課題」において、前期基本計画の後半に入る中で出火件数などについては単年度ごとでなく複数年度の傾向を把握していく必要があるが、消防団の防災活動等において一定の取組の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・取組4-2-1の「消防団員数」や4-2-2の「普通救命講習会」については、市内の住民や市内で勤労・勉学する幅広い年代からの参加が必要であり、大学生が多い市であることからも学生消防団活動認証制度に加えて、大学生消防防災サークル支援事業といった若年層を含む多主体が取り組みやすい支援制度も含めて検討を進めていただきたい。

1 施策の概要

	- 肥泉の似安										
1	まちの将来像	4	市民・地	域とともに備え、命	おと暮らしを	守る安全安心のまち					
2	施策	4-3	防犯や	り多様な危機	への対	策強化を図る					
3		から対 ません	i民の安全安心を脅かすものとして、犯罪や迷惑行為等、モラル低下によるさまざまな問題があり、これまでら対策を講じていますが、今後も効果を検証し、内容の見直しを図りながら、取組を発展させなければなりせん。また、新感染症やテロ行為等の市民生活を脅かす多様な危機についても想定し、その対策を進める、要があります。								
				部名	i	補職名•課名	氏 名				
4	評価者等	評価者	(部長級)	総務部	3	危機管理監	西川 恵三				
4		施策	主担当課	総務部		危機管理課	_				
		施策	関係課	総務課、保健医療課、建設管理課							
		4-3-	1 防犯環	環境の整備							
		4-3-	2 ★防狐	2活動への支援及び	が市民の防犯	意識の向上					
	施策内の 取組	4-3-	3 多様な	多様な危機への体制整備							
5	(★:重点プ										
	ラン該当取 組)										

2 H29年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価 A 施策の方向性に沿って順調に B 施策の方向性に沿っておおむ C 施策の方向性に沿った進行に D 施策の方向性に沿った進行に	っ順調に進 やや遅れか	重行している。 が生じている。
	評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要配	(事)	H29年度末現在の施策の主な課題
	不特定多数の者が出入りする庁舎において、犯罪等を未然に防ぐ抑が期待できることや、万が一犯罪が発生した場合の証拠資料として活用能となることから、H27年度に設置した12台の防犯カメラを設置し、適正理運営に努めました。通学路見守り用カメラ設置事業において、320台の原理、実際となった。	が可な管の防犯	提 犯罪抑止のための防犯カメラの設置を望む 声があります。
	カメラの管理・運営を行いました。また、地域では自治会が防犯カメラ設助制度を活用し、平成29年度は新たに13台の防犯カメラが設置されていす。 地域での防犯活動を支援するため、自治会が管理する防犯灯を対象と LED防犯灯に転換しようとする際には、補助金交付を実施するほか、維 理費用についても自治会負担軽減を図るため補助金交付を行いました	ま して、 持管 ま	自治会防犯灯については、LED化補助金を活用されたことで約76%がLED灯に転換され、一定の効果は図られたが、すべてのIED化には至らなかった。
2	た、夜間の安全通行と犯罪防止対策として、街路灯を新たに設置しまし 青色防犯パトロール車への広報装置等の支援を実施し、地域防犯活きを図りました。また、青色防犯パトロール車の塗装を、警察車両と同じいに変更することで、犯罪抑止力と防犯環境の強化に努めました。 さらに、防犯協会と茨木警察署と連携し、防犯講演会を実施し、地域防	動の促 課色合 (関数 防犯活動団体の高齢化・固定化に伴い、担象 い手が不足しています。
	動の重要性の啓発を行いました。 国と緊急情報を双方向通信するEm-Net(エムネット)及び通信衛星と市の同報系防災行政無線を利用した全国瞬時警報システム(通称:Jアラー訓練に毎回参加しました。新型インフルエンザ等対策に関する国、府、各市の情報収集に努め、新型インフルエンザ住民接種マニュアル(暫定	-ト)の 守内	新型インフルエンザ住民接種マニュアル(東定版)については、国の動向を踏まえ、実行性のある内容に見直す必要があります。
	策定しました。その他のマニュアルについては、府のマニュアルを参考は組むこととしました。 また、基本的な感染予防対策については、市民並びに市内小学校・伊設等に対し、リーフレットを配布し、知識の普及、理解の促進を図りました。	育施 課	新型インフルエンザ等の発生に備えて、組織横断的な取り組みをすすめる必要がありす。

1	まちの将来像	4	市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち
2	施策	4-3	防犯や多様な危機への対策強化を図る

3	施策内の国	施策内の取組の評価 ★:重点プラン該当取組									
1	取 組	4-3-1	防犯:	環境の整備							
2	主担当課	部名		総務部	課名	危	機管理	課	課長名	多田 明世	
3	関係課	総務課、建	建設管理	里課							
4	目 標 (前期基本 計画より)	地域と警す。	也域と警察と行政が連携を図り、防犯活動に取り組む環境が整っています。犯罪件数が毎年減少していま								
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	当なし 内 容								
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	ドと成果	、影響を与	えた外的	な要因等)	
6	H29年度末 現在の取組	a: 順調に進行 b: おおむね順言 c: 進行にやや d: 進行に大幅が	間に進行 遅れ	不特定多数の者が出力 犯罪が発生した場合の記 設置し、適正な管理運営 理・運営を行いました。ま 台の防犯カメラが設置さ、 地域での防犯活動を支 る際には、補助金交付を 行いました。また、夜間の	E拠資料として に努めました。 た、地域では れています。 援するため、 実施するほか	て活用が可能 た。通学路見 は自治会が防 自治会が管 か、維持管理	きとなるこ 守り用カ が犯カメラ 理する防!費用につ	とから、H27 メラ設置事業 設置補助制 犯灯を対象。 ついても自治	年度に設置し において、3 度を活用し、 として、LED 会負担軽減	た12台の防犯カメラを 20台の防犯カメラの管 20台の防犯カメラの管 平成29年度は新たに13 防犯灯に転換しようとす を図るため補助金交付を	
	の現状			全		# / +	めざす	実終	責値	口捶体(左连)	
				参考指標		単位	方向性	H28年度	H29年度	目標値(年度)	
		全刑法犯認	忍知件数	枚(1月から12月)		件	7	2,806	2,576	-	
		地域安全t	ニンター	設置校区数		校区	7	30	30	31 (H31)	

1	取 組	4-3-2	★防	犯活動への支援を	及び市民	の防犯剤	意識の	向上		
2	主担当課	部名		総務部	課名	危	機管理	課	課長名	多田 明世
3	関係課									
4	目 標 (前期基本 計画より)		そ心して安全に暮らすために、一人ひとりが高い意識を持ち、市内各地で自主的な防犯活動が活発に行っています。すべての小学校区で安全パトロールが行われています。							
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	③安全•安	安全・安心に暮らせるまちをつくる 内容 地域ぐるみでの防犯活動の支援							
		取組の記	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	ドと成果	、影響を与	えた外的な	な要因等)
6	H29年度末 現在の取組	a: 順調に進行 b: おおむね順記 c:進行にややい d: 進行に大幅が	調に進行 遅れ	青色防犯パトロール車た、青色防犯パトロール車た、青色防犯パトロー、犯環境の強化に努めさらに、防犯協会と茨を行いました。	ル車の塗装 ました。	を、警察車	両と同じ	じ色合いに	変更するこ	とで、犯罪抑止力と防
	の現状			全		** / +	めざす	実終	責値	口捶່ (左连)
				参考指標		単位	方向性	H28年度	H29年度	目標値(年度)
		青色防犯ノ		校区	7	15	15	31 (H31)		

1	まちの将来像	4	市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち
2	施策	4-3	防犯や多様な危機への対策強化を図る

1	取 組	4-3-3	多様を	な危機への体制型	整備					主	
2	主担当課	部名		総務部	課名	危	機管理	課	課長名	多田 明世	
3	関係課	保健医療	課								
4	目 標 (前期基本 計画より)		様な危機に対しては、国をはじめ関係機関等からスムーズな情報収集を行い、市民に対して速やかに情 と供が行える連携体制が整っています。								
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	内 容								
		取組の	評価	評価理由	(H29年度の	の取組内容	『と成果	:、影響を与	えた外的な	な要因等)	
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順 c:進行にやや d:進行に大幅	調に進行	無線を利用した全国ドルエンザ等対策に関	解時警報シ する国、府、 策定しました 予防対策に	ステム(通報 府内各市の 。その他の こっては、	が:Jアラ の情報リ マニュン 市民並	ート)の訓練 又集に努め、 アルについ びに市内力	に毎回参加 新型インフ	/ルエンザ住民接種マ マニュアルを参考に取	
	の現状			参考指標		単位	めざす	実績値		目標値(年度)	
				少つ旧味		+ M	方向性	H28年度	H29年度	口标心(十支)	
		関係機関と	の情報	伝達訓練実施回数		回	7	33	29	33 (H31)	

4 学識経験者の意見

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	・「施策の現状と課題」において、前期基本計画の後半に入る中で概ね一定の取組の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・取組4-3-2の参考指標「青色防犯パトロール実施校区数」において、平成31年度の目標が31校区に対して、平成28年度・平成29年度と15校区にとどまっており、犯罪抑止における地域コミュニティの役割の重要性をさらに啓発することが必要であると考える。 ・行政内部の訓練・調整や防犯カメラなどのハード対策については取組が進んでいるが、地域コミュニティが関わるソフト対策については今後さらに取組を進めていく必要があることから、福祉と絡めた防犯の見守りなど関連する施策との効果的な連携によって住民への過度の負担を避けつつも効果が得られるような取組を進める方策の検討を進めていただきたい。

1 施策の概要

		_										
1	まちの将来像	4	4 市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち									
2	施策	4-4	4-4 消費者教育を推進し、自立した消費者の育成に努める									
3	施策の 方向性 (前期基本 計画より)	消費生活相談、消費者教育・啓発事業の充実を図りながら消費者意識を高め、自立した消費者を育成するとともに、相談業務の充実や適切な情報提供などにより消費者の安全・安心の確保(消費者保護)に取り組みます。										
				部	名		補職	名·課名	氏	名		
4	評価者等	評価者(部長級)		市民文化部			部 長		上田	雄彦		
7		施策主担当課		市民文化部			市民生活相談課		-	_		
		施策関係課				·						
		4-4-	1 消費者	「教育・啓発の推	進							
		4-4-	2 消費者	行相談の充実								
	施策内の 取組											
5	(★:重点プ											
	ラン該当取組)											

2	H29年度末現在の施策の現状と課題										
1	総合評価 B 施策の方向性に沿っておおむね順調 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。									
	評価理由(H29年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H29年度末現在の施策の主な課題								
		課題	民法改正に伴い、成人年齢の引き下げが 2022年にも施行されることとなったことから、 消費者トラブルの増加が懸念されており、若 年層への消費者教育の拡充が急務となって います。								
	消費者教育・啓発については、大型複合商業施設や公民館等での 移動型消費生活展に加え、高齢者の詐欺被害の深刻な状況を踏ま え、市内巡回型啓発寄席を実施しました。	課題	消費者問題は、生活全般に関わることから、 各世代に応じた体系的な消費者教育の推進 が必要です。								
2	え、甲内心回望啓発奇所を美麗しました。 また、継続実施している市内高校への出前授業を拡充できたほか、 中学校家庭科教員と連携を図り、中学生向け啓発リーフレットを作成 するなど、消費者被害の拡大防止に努めました。 消費者相談については、あっせん率は微減したものの、あっせん解 決率は高い水準を維持し、多くの消費者問題を解決することができた	課題	出前講座等参加人数が前年比減少しており、消費者意識の向上啓発と消費生活センター機能等の更なる周知が必要です。								
	ことから、総合評価としては、施策の方向性に沿って概ね順調に進行していると判断しています。	課題	個々の相談対応については、適切に行うことができましたが、被害の未然、拡大防止を図るためには、警察や地域の関係機関と連携した見守りネットワーク機能の構築が必要です。								
		課題 ⑤	相談事案が複雑化しており、最新情報の収 集など、相談体制の充実を図ることが必要で す。								

1	まちの将来像	4	市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち
2	施策	4–4	消費者教育を推進し、自立した消費者の育成に努める

3 協等内の取組の証価

★.	重点	プラ	ン該	当 毕	ⅳ絲
— •	主灬		ノ衂	= 1	ス 小圧

施策内の原	又組の評価 ★:重点プラン該当取組										
取 組	4-4-1 消費者教育・啓発の推進										
主担当課	部名 市民文化部 課名 市民生活相談課 課長名 戸田 和子										
関係課											
目 標 (前期基本 計画より)		自ら危険回避等をできるだけでなく、社会的弱者などへも配慮し消費行動できる自立した消費者が増加す ることにより、消費者トラブルが減少しています。									
該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	亥当なし 内容									
	取組の評価 評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)								な要因等)		
H29年度末 現在の取組	5.7E1114 (7.E10										
会会を担告 単点 めざす 美額胆								目標値(年度)			
			多行1日1末		平位	方向性	H28年度	H29年度	口惊心(千)又/		
	出前講座•	くらしの	セミナーの受講者数		人	1	2,621	1,710	2,800(H31)		
	問題が多い	問題が多い販売方法に係る相談件数					399	348	443(H31)		
	取 組 主 関係 標本 り から	取組 4-4-1 主担当課 部名 関係課 目標(前期基本) 計画より) 該当する 重点がある 重点がある。 重点がある。 重点がある。 を持つしたよ 取組の H29年度末 現在の現状 出前講座・	主担当課 部名 関係課 目標(前期基本計画より) 該当する重点プラン(前期基本計画より) 取組の評価 ト29年度末現在の取状 は進行に大幅な遅れ は連行に大幅な遅れ 出前講座・くらしの	取組 4-4-1 消費者教育・啓発の推 市民文化部 主担当課 部名 市民文化部 関係課 自ら危険回避等をできるだけでなく、であるとにより、消費者トラブルが減少していることにより、消費者トラブルが減少していままり。 該当する重点プラン(前期基本計画より) 該当なしまり、消費者トラブルが減少していままます。 取組の評価 評価理由 大型複合商業施設が状況を踏まえ、市内巡また、継続実施していままた、継続実施していままた、継続実施しているでは、進行にやや遅れば、進行に大幅な遅れば、進行に大幅な遅れば、進行に大幅な遅れば、進行に大幅な遅れば、進行に大幅な遅れば、進行に大幅な遅れば、進行に大幅な遅れば、進行に大幅な遅れば、進行に大幅な遅れば、	取組 4-4-1 消費者教育・啓発の推進 主担当課 部名 市民文化部 課名 関係課 目標(前期基本計画より) 該当する重点プラン(前期基本計画より) 取組の評価 評価理由(H29年度の 大型複合商業施設や公民館等また、継続実施している市内高さまた、継続実施している市内高さまた、継続実施している市内高さまた、継続実施している市内高さまた、と図り、中学生向け啓発リーフレ芸を図り、中学生向け啓発リーフレ芸を図り、中学生向け啓発リーフレ芸を図り、中学生向け啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を図り、中学生のけ啓発リーフレ芸を掲載を表情である。	取組 4-4-1 消費者教育・啓発の推進 主担当課 部名 市民文化部 課名 市民 関係課 自ら危険回避等をできるだけでなく、社会的弱者などへも認ることにより、消費者トラブルが減少しています。 該当する重点プラン(前期基本計画より) 該当なし 内容 H29年度末現在の取組の現状 取組の評価 評価理由(H29年度の取組内を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	取組 4-4-1 消費者教育・啓発の推進 市民文化部 課名 市民生活相 関係課 目標(前期基本計画より) 計画より 下できるだけでなく、社会的弱者などへも配慮し消 ることにより、消費者トラブルが減少しています。 「内容 下価理由(H29年度の取組内容と成果 大型複合商業施設や公民館等での移動型消費生状況を踏まえ、市内巡回型啓発寄席を実施しました。また、継続実施している市内高校への出前授業をを図り、中学生向け啓発リーフレットを作成しました。 を図り、中学生向け啓発リーフレットを作成しました。 参考指標 単位 めざす方向性 出前講座・くらしのセミナーの受講者数 人 ク	取組 4-4-1 消費者教育・啓発の推進 非名 市民文化部 課名 市民生活相談課 関係課 自ら危険回避等をできるだけでなく、社会的弱者などへも配慮し消費行動でることにより、消費者トラブルが減少しています。	取組		

1	取 組	4-4-2 消費者相談の充実											
2	主担当課	部名		市民文化部	課名	市民	生活相	談課	課長名	戸田 和子			
3	関係課												
4	目 標 (前期基本 計画より)	被害のえ	被害の未然・拡大・再発防止の観点に立った相談体制が充実しています。										
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	亥当なし 内容										
		取組の評価 評価理由(H29年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)											
6	H29年度末 現在の取組	a:順調に進行 b:おおむね順 c:進行にやや d:進行に大幅	調に進行遅れ	あっせん率は微減し を解決することができ:		あっせん解	決率はi	高い水準を	維持してお	り、多くの消費者問題			
	の現状			参考指標		単位	めざす	実終	責値	目標値(年度)			
				多行1日1末		平位	方向性	H28年度	H29年度	口保旧(千皮)			
		あっせん率	<u> </u>			%	\rightarrow	12.9	9.7	12.5(H31)			
		あっせん角	解決率			%	7	78.2	87.0	85.0(H31)			

1	まちの将来像	4	市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち
2	施策	4-4	消費者教育を推進し、自立した消費者の育成に努める

4 学識経験者の意見

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	・「施策の現状と課題」において、前年度と比較して下がった指標があるものの、すでに目標値を大きく達成している指標もあり、全体として目標値へ向けて一定の取組の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・取組4-4-1の参考資料「出前講座・くらしのセミナーの受講者数」が前年度比で減少していることから、その原因を見極めつつ取組に工夫を持たせていく必要があると考える。特に興味のある住民が少なくなっている場合や、すでに受講して満足している場合であっても、毎年変化し、複雑化している消費者問題であることから、多くの住民に理解してもらう必要性と、既受講者の継続受講の必要性を強調する等の啓発活動が重要であると考える。